

ウイズ・コロナ時代の教育

武内 清

(上智大学名誉教授・敬愛大学客員教授)

新型コロナウイルスの世界的な蔓延で、私たちの日常生活は一変し、常時病気にかかったような状態にある。新型コロナウイルスの感染の拡大は、社会の諸分野に影響を及ぼしている。

教育の世界への影響も大きい。一時長期にわたり学校が休校になった時は、学校中心の生活を送っていた子どもたちの生活を一変させた。学校に行けなくなり、授業、遊び時間、部活動、交友もなくなり、子どもたちの学びや楽しみが奪われている。そして学びの社会的格差、家庭間格差が拡大していった。これまで学校が担ってきた教育機能の重要性や平等性が改めて認識された。

一方で、自明であった学校教育の意義も問われた。効率優先の一斉授業、興味のわからない教科の学習、生きる力にならない知識、退屈な学校行事、無意味な校則、教師のストレス解消のお説教など、なくなってみるとスッキリした子どもたちもいたことであろう。

休校中の家庭での自由な学習、親子関係の親密化、ウェブ学習、地域の遊び集団など、これまでの学校教育とは違った自由な学習や生活に、本来の興味と活動に目覚めたという子どももいたことであろう。

学校への登校は絶対必要なのであろうか。精神科医の斎藤環は、人に会うことの暴力性を指摘している。「私が日々している会議、授業、診察。それらもまた、暴力なのだ。私自身、そこに入る前に緊張したり、気が重くなったりする。外出自粛下で、気付いてしまった」と述べている(朝日新聞、2020.6.14)。

学校という場に通い、そこで多くの人に会い苦痛に耐えるのは当たり前という考えを再吟味する必要がある。今の教室の形態、つまり教壇があり教師と子どもが向かい合って座るという形は、一望監視システムという刑務所をモデルにしたものである。この教室の形は教師一人で多くの子どもを監視するには効率的な形態であるが、子どもに緊張を強いる暴力性を帯びている。学級は閉鎖的、半親密でいじめの温床でもある。学校でいじめにあい自殺するくらいなら、不登校を選ぶべきという裁判所の判決もある。遠隔教育で個別学習を経験した子どもは、周囲に気を遣うことなく学びやすいと感じた人もいたであろう。

不登校やホームスクーリングも見直されている。学校に通うことは全ての子どもに必要なことなのか。遠隔でできることはないか、無駄な学校行事はないのか、部活動を外部化できないかなど、この機会に学校生活の当たり前を見直し、過密を避け、教員の負担も減らしたい。

新型コロナ禍で、黒板とチョークを使っていた学校での授業に替わり、家庭での遠隔学習を経験した子どもも多い。デジタル・ネイティブの今の子どもにとって、ウェブ学習で学ぶことの楽しさは増している。コロナ危機後の教育では、ウェブによる教育が学校でも家庭でも盛んになることは必然である。

「教育再生実行会議 第12次提言」（令和3年6月）には、「ニューノーマルにおける新たな学び」「遠隔・オンライン教育の推進」というキーワードが掲げられている。新型コロナの終焉が見えない中で、教育の当たり前を見直し、デジタルを利用して新しい学びの形態が模索されることに異論はないであろう。

一斉教育、チョークと黒板、紙の教科書、学校行事、クラブ活動が当たり前の学校教育から、デジタル教科書、遠隔教育、個別最適化などを取り入れた教育方法への転換が試行されている。

しかし、教育のデジタル化には多くの課題がある。子ども一人に一台の情報端末を配布すれば、デジタル教育が進むわけではない。それには、学校のデジタル環境の整備、教員の研修と意識の変革、家庭のデジタル格差の是正、デジタル教育の実践の積み重ねとデータでの検証が必須である。

子どもの集中力や深い学びには、ウェブ学習より伝統的な教育（紙とチョーク）が適格的という報告もある。

将来の社会生活を考えると、小中学生にはリアルな対面指導や学校生活の重要性はなくならないが、高校生・大学生になると社会性も育っているため、デジタルを利用した遠隔教育でも事足りる場合がある。

遠隔教育を経験した大学生の声をいくつか紹介する。

「(対面教育) ならではの緊張感、表情が見える教育、人に会う苦痛やストレスの耐性を付ける」

「(遠隔教育で) 通学時間が省ける、人に会うという苦痛から解放される」

「自分のペースで学習できる、私語やスマホに気を取られず集中して学べる」

「自分の意見を主張しやすい」「対面と遠隔の両方を組み込むのが最適」(敬愛大学学生)

コロナ危機は、経済や政治の分野でも大きな変化をもたらし、教育にも跳ね返ってくる。経済的な不況による教育費の削減、危機管理を名目にした超管理社会への移行など。危機後は教育力の維持、教育的格差の是正、民主主義の維持などがなされなければならない。

人には環境の変化に対して動的にに応じていく適応能力、つまりレジリエンスがある。それは、環境の変化に対して自らを変化させて対応する柔軟性である。ウイズ・コロナの時代、レジリエンスの能力を使い、難局を乗り越えたい。